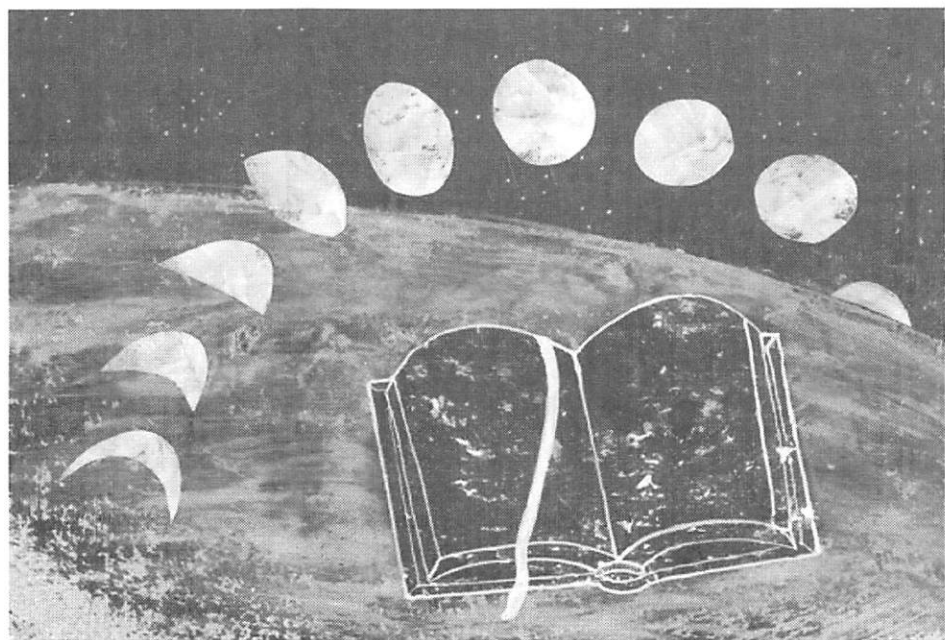


平成17年
10月号

250円

やすらぎ

人と人をつなぐ月刊総合誌



「私にもし、それが作用している、という経験的知識がなければ、私はそのようなマシンの存在を絶対に信じなかつただろう。私が1秒に1兆の反応を起こしていること、常に起こしていること、取り違えたりはしないことをどうやって信じられただろうか。指を動かすのに10億の反応を起こしていること、1兆ものギアが、それ自体ひとりで、ミスなく動き続けているということ。」 p.23

タクワ(敬虔さ)

教師であるあゆみさんへのインタビュー

ラマダーンQ&A(基礎の基礎編)

ご病気の方々へのメッセージ

自分と他者

未知との遭遇

一本の指が動く時

タンドリーチキン



息子がまだ首の据わるか据わらないかぐらいの赤ちゃんだった頃にラマダーンを迎えたことがあります。視力もおそらくそれほどはないという時期です。家の中で頻繁にじっと見つめている箇所がありました。または他の場所にいた場合でも、宙の何かに注目していることがよくありました。周りの大人は、「このぐらいの赤ちゃんてそうよね」とか「時計の振り子でも見ているのかしら」などたわいもない会話をしていましたが、私には少し違う様子に思えました。罪が一切なく清らかな赤ちゃんには天使やジンが見えると聞いたことがあります。息子も明らかに何かを見ている目をしていました。そのとき、私には見えない世界、感じられない異次元の世界があることを、息子を通じて確信させられたのです。

同じ年のラマダーンではもう一つ学んだことがあります。授乳中の断食をするにあたって、母乳の出が悪くなるのではないかと不安を持っていました。授乳する傍から喉が渇いていくような体なのに自分自身の体ももつだらうかと案じもしました。結論を言うと、自分自身の体が例年以上に消耗するということはありませんでしたし、授乳量も、ラマダーン以前は少し足りなくて粉ミルクを必要としていたのが、ラマダーン中に十分足りるようになったぐらいだったのです。初めての子育て、初めての経験の中で必要以上に心配してしまっただけですが、結局、母乳を出させるのも出させないのもアッラーの御心次第であり、自分があれこれ悩んでも仕方がないことだった、アッラーに委ねるべきだったのだと思知らされたのでした。

人は通常、常識とされているものや経験則に従って物事を理解し判断しますが、不完全な人間がなすその価値判断に縛られ、物事の真実を見出す努力や受け入れる勇気が欠けていることが多いのかもしれませんが。ラマダーン中は、目の曇りが晴れ、心の束縛が解ける瞬間が普段よりも多く訪れる月でもあるように感じます。私たちのだれもがこの大いなるチャンスを逃すことのないよう、願っています。



編集部より	2
美德	3
祈りのある毎日へ	3
タクワ (敬虔さ)	4
教師であるあゆみさんへのインタビュー	7
ラマダーンQ&A (基礎の基礎編)	9
3ヶ月 (ラジャブ、シャアバーン、ラマダーン) に関するメッセージ	10
近い将来についての言及	15
ご病気の方々へのメッセージ	17
自分と他者	19
未知との遭遇	20
一本の指が動く時	22
タンドリーチキン	24
リュックの先生 東へ西へ	25
アンネより	27
読者からのメッセージ	28





美德は、仲間のうちにあつてマットや床に腰をおろします。うぬぼれは、巨大なソファにすら収まるできません。うぬぼれは、モスクのドーム型天井のような外観を持つ、逆さにされた井戸に例えることができ、美德は地平線に下りているかのように見える天球に例えることができます。

無知はうぬぼれに、英知は美德に、人を導きます。うぬぼれは、無知の不義の子であり、美德は英知の由緒正しい子息です。うぬぼれは暴政の味方となり、美德は自由と平等の支持者となります。

うぬぼれは常に孤独のうちにあり、同類を探しています。美德は同類を見つけたという安らぎのうちに、いつでも仲間と共にあります。

「強制によってよいものはうまれない。」といわれますが、それは事実です。立派なものも、強制によってはうまれません。これらは二つとも、良心が定めるものです。

一部の人々にとって、自分たちのことを気に入る人々が「楽観的」気に入らない人々は「悲観的」と見なされます。彼らは、前者を評価し、心を開きますが、後者は遠ざけます。実は、遠ざけられなければならないのはこの「自己中心主義」なのです。

楽観主義は、全てをよく見なし、悲観主義は全てを悪く見なします。これらは双方とも有害です。よいものはよいと、悪いものは悪いと見なすことが、「真実を見出す主義」なのです。

ドゥア（祈り）のある毎日へ



かれの恵みにのみ希望を見出すことができるお方よ

かれの公正さのみが畏れられるお方よ

かれの善のみが待ち望まれるお方よ

かれの赦しのみが望まれるお方よ

かれの大権のみが永続するお方よ

かれの統治の他に統治者がいないお方よ

かれの明証のみが明示されるお方よ

恩寵により、よろずのものを包みこまれるお方よ

怒りより憐れみが勝るお方よ

かれの御知識でよろずのものを包み給うお方よ

あなたは完全無欠なお方、あなたに栄光あれ、あなたの外に真の神は存在しません。私達を地獄の炎からお助け下さい。¹

¹ 偉大なる鎖帷子（ジャウシャヌカビール）には、祈願（きがん）、唱念、救いを望むことが記されています。それは、真の主アッラーの多くの御名を知らしめ、それらの御名と共にアッラーへ祈願し、近づく方法を示す大変貴重な意味深い書です。鎖帷子は戦いの時、身を攻撃から守るために着ます。人間の靈魂に授けられた尊榮を守るためには、偉大なる鎖帷子のような精神的燈が必要です。本来、偉大なる鎖帷子（ジャウシャヌカビール）が精神的世界のみではなく、物理的世界においても守りとなると伝えられています。



タクワ(敬虔さ)

タクワは自己防衛や回避という意味のウィカヤという単語を語源としています。アッラーが指示されたことを実行し、アッラーが禁止されたことを守ることによって、自分自身をアッラーの罰から守ることとタクワを定義されています。文字通りの厳密な定義の他に、イスラームに関する本では、敬虔と畏怖が入れ替え可能な形で使われていることがあります。事実、タクワはシャリーアの戒律と自然と人生におけるアッラーの定められた法を信仰する者が遵守することを意味する包括的な言葉です。そのような人はアッラーの罰からアッラーに保護を求め、地獄へとつながる行為を避け、楽園へつながる行為を実行します。繰り返しになりますが、そのような信仰する者は、外面的内面的感覚の1つにおいてもアッラーに他のものを並べることがないようにし、その感覚すべてを浄化し、不信仰者の世界観やライフスタイルを真似ることを避けます。このような包括的な意味において、タクワは人の崇高さと価値の唯一にして最大の基準なのです。『アッラーの御許で最も貴い者は、あなたがたの中最も主を畏れる者である。(聖クルアーン 49: 13)』

概念だけでなく言葉自体としてもタクワは聖クルアーンとイスラームの宗教体系に特有のものです。この包括的意味は精神的及び物質的なものを含みます。その根はこの世界に根ざし、その枝や葉、花、果実は来世にあるのです。人はタクワの魅力的で素晴らしい概念の意味や内容を考えることなしに聖クルアーンを理解することはできません。また人は、聖クルアーンで要点が示されている実践や概念を意識的にまた継続的に固守しなければ、ムタッキ(敬虔な人)になることはできません。

まさに最初の部分で、聖クルアーンはその戸を敬虔な人々に対し開いています。『それこそは、疑いの余地のない啓典である。その中には、主を畏れる者たちへの導きがある。(2: 2)』そして人々に敬虔になるように、聖クルアーンに合ったように生きることを呼びかけています。『人びとよ。あなたがた、またあなたがた以前の者を創られた主に仕えなさい。恐らくあなたがたは(悪魔に対し)その身を守るであろう。(2: 21)』

アッラーの目に最も愛すべき行為と映るものは敬虔(タクワ)であり、最も浄化されたアッラーのしもべは敬虔な者であり、彼らに対する無比なるアッラーの御言葉が聖クルアーンなのです。敬虔な者はこの世界では聖クルアーンを持ち、あの世ではアッラーにお会いしお喜びを受けます。良心と精神の中に感じられる喜びは敬虔であることから得られるものの1つであり、アッラーは次のように述べられ私たちに敬虔さの重要性を思い出させられています。『あなたがた信仰する者よ、十分な畏敬の念でアッラーを畏れなさい。(3: 102)』

敬虔であることは意識的に善行を行い悪行を避けることであり、それは個人が最も低い中の低いところに加わることを防ぎ、最も高い中の高いところの道を進むようにさせるのです。このため、敬虔に達した人はすべての良いことや祝福の源を見つけたということとなります。このことについては次のようにも示されています。

“アッラーがイスラームと敬虔さを与えられた者は皆、この世界と来世の目的に気がついている。

アッラーの兵士で敬虔な者は誰でも、繁栄し真に導かれており、惨めな者ではない。

敬虔からかけ離れている者は皆、その存在は恥と不名誉以外のなにものでもない。

真実に対して生きていないものは真の意味では生きていない。アッラーへの道を見つけたものだけが生きている。”

敬虔であることは計り知れないほど貴重な宝物であり、お金では買えない宝物の中でも他のものとは比べようのない宝石であり、すべての良いことへのドアの不思議な鍵であり、また楽園への道の乗り物なのです。その価値はあまりにも高いので、聖クルアーンの中でこれは 150 回も言及され、それぞれが私たちの心と精神を貫く光の一層一層のようです。

限定された意味においてタクワは、シャリーアの戒律に敏感であることと、アッラーからの報酬から人を遠ざけアッラーから罰を受けるようになる行為を避けることを意味しています。『また、大罪や破廉恥な行為を避ける者 (42:37)』は基本的な宗教的善行の一面を表し、『本当に信仰して善行に励む者 (10:9)』はもう一面を示しています。義務の宗教的行為を厳格に遵守することと大きな罪を避けることはタクワの基礎を成す必要かつ補完的な 2 つのものです。聖クルアーンがイアムム（軽罪）と呼ぶ小さな罪については、人々に注意深くあるように警告するたくさんのハディースが残っています。例えば次のようなものです。「アッラーのしもべは、危ういことをしないために許されたことを避けるようになるまで、真の意味で敬虔であるとは言えない。」²

完璧な意志の誠実さや純粋さはアッラーに他のものを並べる可能性のあることをすべて避けることで達成されますが、完璧な敬虔さは疑わしいものと危うい行為すべてを避けることで達成されます。ハディース（預言者様の言行を記録したもの）によると次のように言われています。「合法なものは証であり、禁止されたものもまた証である。この二つのもの間に、ほとんどの人がそれが合法なのか禁止されているのか知らないものがあり、真に正しく精神的な生活は疑わしい事柄に対して敏感であることに依っている。」³このハディースはシャリーアの法が幅広く何が許され何が禁止されているのかを説明しているというのを指しています。しかし、多くのことが許されているか禁止されているか明確でないので、疑わしいものを避ける人だけが本当に信仰深い生活を送れるのです。預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）はハディースの続きの中で比喩を用いて次のように述べられています。

「羊の群れが他人の土地や公共地の近くで牧草を食べていたら、そちらへ入って行ってしまふことがあるように、疑わしいことをしている人は禁止されたことをしてしまう可能性がある。それぞれの王が自分の保護の下に私有地を持つことを知りなさい。アッラーの私有地は禁止されたものである。また、体にはある特定の部分があることを知りなさい。それが健康なら体は健康になり、それが病気なら体も病気になる。その特定の部分とは心臓である。」

この健全な精神生活の基礎という光の中で疑わしいものと小さな罪を避けることによって、完璧な敬虔さは得られることができます。しかしながらそのためには、何が合法で何が禁止されているのかを知り、アッラーの知識を持たなくてははいけません。次の二つの章句に敬虔さと知識の結びつきについて書かれています。『アッラーの御許で最も貴い者は、あなたがたの中最も主を畏れる者である。(49:13)』『アッラーのしもべの中で知識のある者だけがかれを畏れる。(35:28)』敬虔さは栄光と高潔さをもたらし、知

² Tirmizi, sifatu'l-kiyame 19; Ibn Mace, zuhd 24.

³ Buhari, Muslim

識は人をアッラーを畏れ崇敬させるようにします。敬虔さと知識を心の中で結びつける人は聖クルアーンの中で敬虔さの試験に成功した人たちだと述べられています。『アッラーがその心の敬虔さを試みられたものである。(49:3)』

崇拜と服従において敬虔さは心の純粋さであり、精神的に深いことであり、また誠実さを意味します。許されていないことを避けることにおいては、罪を犯さない、疑わしいものを避けると固く決意していることを敬虔さは意味します。そのため、次のことはそれぞれが敬虔さの一面だと考えられます。

*アッラーに認められることとアッラーのお喜びだけを求め、アッラー以外の何者にも心を向けないこと

*シャリーアの戒律のすべてを遵守すること

*目的を達成するために必要なことはすべて行い、そして結果はアッラーによってもたらされると確信していること。そのため、運命論者であってはならず（つまり望む結果を得るために必要なことを実行することを怠ってはならず、考え得る逆境や失敗に対して必要な手をすべて打たなければならない）、行為や達成におけるアッラーの関与を拒否してすべての行為や達成が自分の力によると考えるような純粋な合理主義者や実際主義者（ムタズィリ）であってもいけない

*自分をアッラーから逸らす可能性のあるものすべてに対し注意深くあること

*自分を禁止された領域へ導いてしまう可能性のある現世の喜びに注意深くあること

*物質的精神的に達成できたものはすべてアッラーによって可能になったと考えること

*自分自身が他の誰かよりも優れているもしくは劣っていると考えないこと

*アッラーとアッラーのお喜び以外のものは追求しないこと

*条件や制限をつけずに私たちすべての指導者預言者（彼の上に祝福と平安あれ）に従うこと

*自分自身を刷新し、自然や人生におけるアッラーの法だけでなくアッラーの行われることや影響を勉強し、常に自分の精神をコントロールすること

*死を心に留め、それがいつ訪れてもおかしくないことを意識して生活すること

つまりタクワはアッラーが与えられた人生の水であり、ムタッキ（敬虔な人）はそれを見つけた幸運な人なのです。この祝福を受けることができているのは少数の人だけです。ある詩人は言います。

全能の神アッラーは言われた。「あなた方の中で最も優れたものは敬虔な者である。敬虔な者の最後の住まいは樂園であり、飲み物はカウサル¹の水である。」

おおアッラー！ 私たちをすべての宗教行為に誠実であるあなたの敬虔なしもべの中に含めてください。

¹ 天国の川の本流

今回は教師であり、母であるあゆみさんにお話を聞きました。

Q あゆみさんの教えている科目は何ですか？

A 私立の女子中・高等学校で社会科の教員をしています。現在、高3の担任です。今年は、中1地理と高1現代社会、高3地理を教えています。

Q 学生達又学生の親と、どのようにコミュニケーションを取っていますか？

A 生徒と教員の関係がとても近いというか、生徒は職員室にも気軽に入ってきて話しに来ます。生徒の個性を重んじているし、自主性を尊重しているので、教員も生徒の意見をよく聞いて、アドバイスします。現在、高3の担任ということもあり、進路の相談は毎日あります。保護者とは、お話ししたいことがあれば、随時、ご相談にのりますので、遠慮なく、声をかけて下さいと伝えています。電話での相談や学校に来ていただいて面談をすることもあります。

Q 他の学校や、公立の学校に勤務された経験がありますか？

A 院を卒業してすぐ、現在の学校に勤めたので、他校のことは分かりません。ただ、公立の先生から、子どもが生まれると部活の顧問をやめるので、廃部になってしまうと聞いたときは生徒がかわいそうだなと思いました。公立では部活指導はボランティアの位置付けですが、私立学校では部活も仕事の一部です。

Q 家庭と仕事の両立でのメリット・デメリットを教えてくださいませんか？

A メリットは、仕事で子どもの面倒を見られない時に、いろいろな人たちに助けてもらって面倒を見てもらっていることです。上の子は3歳から幼稚園に、下の子は1歳から保育園に行っています。夫も、よく、子どもの面倒を見てくれます。私立学校なので宿泊を伴う引率が多いので、時々、祖母に面倒を見てもらうこともあります。幼稚園の送り迎えにはシッターさん達の手を借りています。時々、夫も私も子連れで出勤することもあります。職場の周りの人たちを含めて、いろいろな人に、お世話になりながら子どもの成長を見守ってもらえることは、子どもにとってプラスだと思います。デメリットは、とにかく時間がないことです。仕事も家事もハッキリ言って、終わりません。人から見ると、両立しているように見えるかもしれませんが、私の中では両立していません。仕事も家庭も最低限のことしかできないので、家庭にも職場にも迷惑をかけているかと思うのですが、みんながカバーしてくれていると思うので、本当に感謝しています。

Q 何時から教師になりたいと思ったのですか？ その科目を選んだわけは？

A 高校生の時から地理の教師になりたいと思っていました。転勤族で、日本の中で何度も引越しをする中で、日本の地域文化の差異にもとても興味があったし、地理の授業で先生から聞く、外国の話にもとて

も興味があったからです。大学ではタイ語とタイの教育研究をしていました

Q 大学ではタイ語とタイの教育研究をしていたという事ですが、日本の教育と違う良い所などはありますか？又今の教育現場で、活用されている事などあるのでしょうか？

A タイでは教師と生徒の上下関係がはっきりしていて、生徒は先生のそばを通るときも、腰をかがめ、頭を下げて通ります。先生は厳しいですし、とても尊敬されています。今の日本の教師と生徒の関係とは全然違いますね。ただ、授業中にトイレに行くのは自由ですし、休み時間にはアイスクリーム屋などの屋台が学校に来るので、飲食は自由です。掃除も生徒の義務ではありません。学校では自分の海外での体験を含め、イスラームのこともよく話します。この間、別の先生が授業の一環として、東京ジャーミーのジユマの礼拝の見学に生徒を引率しました。見学後、生徒たちもとってもよかったといってその時の様子を話してくれました。

Q 教師を辞めたいと思ったことはありますか？ 又これから教師を目指している方に伝えておきたいことはありますか？

A 女性にとって、子どもを教育し、育てるという教師という仕事は、とてもよい職業だと思います。子どもたちの成長を見守っていくことはとても楽しみですし、自分も一緒に成長していけ、やりがいもあります。ただ、私立学校ということもあり、仕事はとてもハードです。質のよい教育を追求していくと際限がないからです。息子たちは1日も休まずに幼稚園や保育園に行っているのに、私自身が過労気味で、熱を出して寝込んでしまうと、正直、もうやっていけないと思うこともしばしばあります。

Q 学生達は今の社会に対して何を考え感じているのでしょうか？

A 生徒はとてもしっかりしています。最近景気が悪く、就職難だということも分かっているので、ただ、大学や短大に行くのではなく、はっきりした目的をもって、進路を決めていきます。中1から一緒に持ち上がり、5年前に送り出した卒業生が今年から、社会人1年目として働き始めているのですが、様々な分野で活躍しているようで、とても頼もしいです。卒業した年に生まれた上の息子のこともよく尋ねられます。

最近目的もなく生きている若者が多いと、メディアでは言われていますが、真剣に人生を考え取り組んでいる多くの学生が居る事を知ってとても嬉しい事だと思いました。





Q1 ラマダーン月とは何月のことですか。

A1 イスラーム歴の第九番目の月にあたります。イスラーム暦は太陰暦で、月の周期をもとに定められた暦です。太陽暦よりも11日短く、従ってラマダーン月は毎年、前の年よりも11日早まることとなります。

Q2 ラマダーンの間は一ヶ月ずっと飲み食いしてはいけないのですか。

A2 夜明け前から日没までの間だけ、断食をします。

Q3 薬も飲んではいけないのですか。

A3 口や鼻から体内に薬を体内に入れることも、この時間帯には禁じられています。ただし、病人は断食をしなくてもよいとされています。できなかった分を後日行うこととなります。

Q4 タバコもいけないのですか。

A4 喫煙は禁じられています。そのほか、夫婦の間の性交渉もこの時間帯においては禁じられています。また、他人の中傷・誹謗を行ったり、欲望の虜になったりしないようにすることは、いつでも大切なことですが特にラマダーン月の間中は重要です。ラマダーン月においては単に断食だけではなく、このような齋戒が行われるのです。

Q5 妊婦や、授乳中の人にはきついではありませんか。

A5 妊娠中もしくは授乳中の女性は断食を行わなくてもよいとされています。この場合も、のちにできる状態になったときにその分の埋め合わせをします。月経中の女性も断食は行いません。妊娠中・授乳中でもできる人は行っても構いませんが、月経中の場合は行ってはいけません。

Q6 子供はどうしますか。

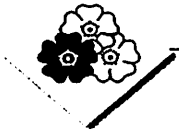
A6 思春期以前の子供はしなくてもよいことになっています。また、老人や特に体の弱い人もしなくてもよいとされています。この場合あとで埋め合わせ、というのもできませんが、その代わりに余裕があれば（最低限のラインが定められていて、それ以上の収入・貯蓄があれば）断食できなかった日数につき少なくとも一食分の食事、あるいはその費用を貧者に施すこととなります。旅行中の人も、困難であるようならしなくてもよいとされていますが、これはあとで埋め合わせが必要です。

Q7 うっかり忘れてしまって無意識に何かを飲んだり、口にしたりした場合はどうなりますか。

A7 その場合は断食を破ることはありません。断食を続けることとなります。

Q8 もししなかったらどうなるのですか。

A8 まず、断食というのはムスリムにのみ課せられている義務です。ムスリム以外の人には課せられてはいないわけです。もし、ムスリムが何の理由もなく断食を行わなければ、あるいは途中で放棄すれば、その一日につき60日分の断食をすることとなります。



3ヶ月(ラジャブ、シャアバーン、ラマダーン)に関するメッセージ

ムーサ フブ

第四に；聖ラジャブ月はアッラーとしもべの間、聖シャアバーン月は預言者（彼の上に平安あれ）と共同体の間を、ラマダーン月は共同体の人々の間で、お互いに関係を築き、心と魂を固く結びつけることが期待される祝福された月々です。

信仰者がしもべとしての存在をアッラーに、共同体の一員であることを預言者（彼の上に平安あれ）に示し、遠さを近さに、冷たさを暖かさへ、無知を有識へ、有識から愛へ、愛から崇拝行為へ変わること、また変わることが望まれるよい時期とされるラジャブ月、シャアバーン月、ラマダーン月はアッラーに僕として借りを返すことができ、みんな一緒に正しい道に集い、整えられるのを目前にしながら、タラウィーの礼拝をモスクで行い、みんな一緒に過ごせる時期です。また豊かにもてなされるイフタール（日没確認後の断食明けの食事）やサフル（断食を行う際に夜明け前にとる食事）では神からの恵みをみんなで分かち合い、挨拶しあい、贈り物をしあい、助け合い、訪問しあうことがいつもより頻繁に行われます。短いえば、イスラームの同胞であることをお互いに示しあい、お互いが近づき、抱擁しあう月でもあります。ラジャブ月はアッラーを、シャアバーン月は預言者（彼の上に平安あれ）を、そしてラマダーン月は共同体を信仰者の皆さんに思い浮かべさせるに違いありません。これらのことを考えているうちに、「今私はどこにいますのでしょうか？私がすべきことと私がしたことは同じでしょうか？もし違うのであれば私はその間をどのようにうめることができるのでしょうか？」と自問自答し、その中から色々なことを見出せるようになります。3ヶ月間の徳を示すハディースからこのような問いを生じさせ、信仰者は自分自身を省み、清算することが可能となります。そして、より正しい道へ進むことができるようになります。

第五に；自我意識の消滅（アラビア語：ファナー フィンナフス）、預言者の特性の中に自我を滅し預言者のスンナとハディースのみに従うこと（ファナーフィッラスール）、自我を滅し、アッラーですべてを満たし、アッラーのみに従うこと（ファナー フィッラー）は、3つの月、ラマダーン、シャアバーン、ラジャブに行いやすくなります。

最後のラマダーン月には、最終的になされるべき個人の解放と、個々人への愛情をお互いが示しあいます。次に、ラジャブ月とラマダーン月の間では、アッラーとしもべの間で伝達する役目の担うアッラーの使徒を想い、悪い自我を消滅させることに努めます。そして一番初めには、最も高くあられるアッラーのみを想い、悪い自我を消滅させることに励みます。ラマダーンから時間をさかのぼれば上るほど広く開かれ、同時に先へ、側へ、上へ向かって広がり高まっていき、本然に基づいてなされる向上とはこのようになされます。人間はまず本性にしたがって自我（自分自身）を愛します。それから自我の益に基づいて他者を愛します。他者の中で身近では、無力な赤ん坊の時から世話をしてくれる母親であり、また最も有益なお方は預言者（彼の上に平安

あれ) です。そして自我が最も愛する者は、あらゆる益の源、害を阻止し給うお方であられる真の主です。最もその方を敬愛いたします。つまり3ヶ月は、その最後に、自然にうまれる愛の感覚に始まって、一番高い頂まで範囲を広げ、のぼり続ける月々です。

しかしこの自然に生じる愛情が神のご満悦を得るための意欲といえるならば、ラジャブ、シャアバーン、ラマダーンの月々の時間軸に沿った時間の流れ方は順序が正しいともいえます。時の流れに従いますと、はじめに迎えるラジャブ月はアッラーの月であります。信仰者にとってまずはじめ、最優先に愛されるべきお方はアッラーであります。次に続くシャアバーン月はアッラーの使徒の月であります。アッラーの次に敬愛されるべきお方は私たちの預言者(彼の上に平安あれ)です。そして最後に迎えるラマダーン月は共同体の人々のための月であります。3番目に愛されるべきものは、私たち自身一人一人であり、父や母、配偶者、子供たちです。このように祝福された3ヶ月、ラジャブ、シャアバーン、ラマダーンの月々は、時の流れにそって私たちを自然に意欲的になれるように、1つを別の1つと区別させ、優先すべき順序を、後からはじめにというように、英知に満ちた順序にのっとして続いています。

信仰の段階も、弱さから強さへむかえるよう配慮してあり、信仰者たちが3ヶ月間を有意義に過ごせるようにバランスよい順序で示されています。信仰の大変弱い人々は金曜日もラマダーンもみいつの夜も知りません。信仰の弱い人々は3ヶ月間でみいつの夜を有意義に過ごそうとします。まるで365の車両を持つ列車で最後の車両の後ろドアから飛び込もうとする「一番遅く乗りこむ者たち」のように、最後になって飛び込むことで自分たちをドアまで何とか飛び上がらせませす。可能性は少なくともなんとか乗り込もうとする人々は浅はかに見えるかも知れませんが、多くの人々はこの一度の飛び乗りのチャンスを生かし成功する容易さと幸運さに興味を示します。時に彼らをアッラーは性質のよさと徳に免じて取り成されます。一年中うかつに過ごす一人のしもべを一晚でお赦しになられることがあります。その者に天国を保障します。これらは全て彼の慈悲により起こります。そうではありませんか？誰が天国を額に汗することで手に入れたでしょうか？(訳者注：額に汗をかきながら一生懸命生きることは大切なことで、軽視しているではありません。しかしどれだけ人間ががんばっても、アッラーの慈悲には及びません。天国はアッラーの慈悲によってのみ開かれますが、同時に、額に汗することをアッラーはお喜びになられます。)少し信仰の強い僕たちは、ラマダーン月に断食しますが義務の礼拝を完璧にしません。最後の10日間、宗教的生活を重視して、みいつの夜を探そうとします。365日の中でこの10日間は継続的に慈悲あまねく慈悲深きお方のお赦しを求め続け、救われることを願います。信仰の強い僕たちはラマダーン月のすべてを断食して過ごし、夜にはタラーウィーの礼拝をします。他の人々にも断食するよう促します。1ヶ月ずっと、みいつの夜を捜し求めます。さらに最後の10日間、機会があり可能ならば、御籠り(モスクで寝泊まりして崇拝行為につとめること)します。自分自身をすべてアッラーに捧げます。信仰のより強い人々は、ラマダーン月だけでなく、シャアバーン月もアッラーに近づこうと努めます。その月も大部分断食して過ごします。中間に迎える赦しの夜には、慈悲あまねく慈悲深きお方の力強い慈悲によって獄火から救われることに励みます。信仰の最も強い人々は、ラジャブ月からずっと、献身的に崇拝行為に専心し、3ヶ月間を有意義に過ごします。ラジャブ月の初め、ラギーブの夜には、天使たちがこぞつ

て懇願しますが、彼らも精神的向上と来世のために、真剣に決意し、悔悟し、赦しを希求し、崇拝行為に向かいます。その月の最後の方のミイラージュの夜にも、礼拝用小絨毯を翼として天高く飛び、すばらしい霊的世界へ入ります。「礼拝は信仰者にとってミイラージュです。」という意味でも、自らの徳によってすばらしい世界に向かって羽ばたきます。

アッラーはラジャブ月、アッラーの使徒はシャアバーン月、彼の共同体はラマダーン月。というこの順番と組み合わせは以下のように説明できます。生まれつき自然には、人間ははじめ自分自身を愛します。それから自分自身をもっとも善きお方であられる預言者（彼の上に平安あれ）を愛します。そして、最終的に唯一の神、アッラーを愛します。ラマダーンから時間的に前に向かって継続的に高められていきます。自分自身を救い出したいと願う信仰者たちはラマダーン月を有意義に過ごそうとします。怠け者の信仰者たちは最後の10日間を、より怠け者で信仰の弱い人々は、ただみいつの夜を・・・というわけで、もし何もできないとしてもみいつの夜だけでも価値ある時を過ごそうとします。しかし、その夜に救いを求めようとする考えや意図を持たない者達の心の中の信仰心にはその夜さえも影響しません。彼らは植物人間のように生きているわけです。みいつの夜に赦しを希求し、獄火から救われる事をのぞみ、たとえ一夜であってもチャンスを生かして天国行き最終列車の最終車両の最後のドアから中へ飛び込もうとする困難と不安にみちた信仰者たちもいます。彼らのすぐ上には最後の10日間にみいつの夜を捜し求める人々がおり、さらに彼らの上には最後の10日間の御籠りをする者たちがいます。さらにその上にラマダーン月の間ずっと、そのように過ごす者たちがいます。ラマダーン月に、自分自身と家族を獄火から救うために、しもべとして精神的向上を目指し崇拝行為に励み、有意義に過ごす者たちは、シャアバーン月をも有意義に過ごせる恵みを与えられます。シャアバーン月を価値あるものにする信仰者達にはさらに階段を一段一段上るがごとく、ラジャブ月をも有意義に過ごせる恵みがアッラーから授けられます。

自分自身を救おうとする者たちは少なくともその問題を知っています。自分を救おうとする問題さえ自分の中に生じない者たちはラマダーン月さえ有意義に過ごすことができないのですから、シャアバーン月やラジャブ月を価値あるものにするは大変難しいでしょう。今日はエゴイズムの時代です。聖ラマダーンを個人の来世のために有意義に過ごせないという信仰者たちはこの点からも賢いとはいえません。エゴイズムがこの時代有効なものでしたら、自分のための来世の生活をも同様に考え、大切に、来世での救いを得ようとすべきです。マフシャル広場（審判の日にみんなが集うところ）でも（利己的な考えが）起こります。来世を考えるものたちにとって、一番行動的で活動的にならなければならない月はラマダーン月です。なぜなら、共同体の一人一人に割り当てられた月であり、来世のためにもたらされた豊かな時でもあるのですから。

結論として、このハディースは、「おお、信仰者たちよ、アッラーを愛する者はこのラジャブ月に崇拝行為に励みなさい。預言者（彼の上に平安あれ）を愛する者はこのシャアバーン月にできるだけ多くサラワートをおくりなさい。そしてスナに従いなさい。自分自身を愛する者は（愛さない者はいませんが）ラマダーン月を正当な割り当てとして有意義に過ごし、自分自身を獄火から救うよう励みなさい。」と私たちに強く語りかけ

ています。最も賢い者達は、一生懸命がんばって、この3ヵ月間を力の限り、または力が及ばないとしても、心から意思表示をし価値付けることに真剣に誠実にとりくみます。

第六に；「ラジャブ月はアッラーの月、シャアバーン月は私の月、ラマダーン月は共同体のための月です。」この聖ハディースの意味をより強化するために、ほかのハディースを引用します。それはアナス・ビン・マーリクによって伝えられました。アッラーの使徒はこのようにおっしゃられました。「アッラーによって選ばれた月はラジャブ月です。ラジャブ月に敬意を表する者はアッラーの命（令）に敬意を表するものです。アッラーの命に敬意を表する者、その者をアッラーは天国の園に迎え入れ、恵みを授け給います。・・・」つまり、テーマのハディースを支えるこのハディースについて、よく見ていきますと、鍵となる言葉が敬意であることに気づきます。つまり、ラジャブ月に敬意を表するなら、アッラーの命に敬意を表し、シャアバーン月に敬意を表するならアッラーの使徒とスナナに敬意を表し、ラマダーン月に敬意を表するなら、共同体の一人一人に敬意を表さなければならないという意味に至ります。3ヶ月間の3段階を比べることで、より正しくそれぞれの月に敬意を表すことが可能となるでしょう。

第七に；以上の説明の他に、またはその中に、おそらくアッラーとアッラーの使徒のみをご存知で、私達しもべと共同体の各々には知ることができない秘められた意味が多く隠されています。

知る限り、ラジャブ月はアッラーのために、シャアバーン月はアッラーの使徒のため、そして、ラマダーン月は共同体の月とされています。アッラーのみをご存知です。おそらく共同体の皆さんにこれらの月々の徳を気づかせるために、預言者（彼の上に平安あれ）はある程度暗示なさいました。時には明らかな言葉よりも暗示の方がより明確にわかる場合があります。3ヶ月間の徳をこのように、それぞれ比べながら、正確に捉え、気づかせること、黙することを勧めることは、何度も質問し返答を求める者たちに、より強い影響を与えることとなるでしょう。そして、心に残る伝達方法を見出すことにもなります

さらに、これからお話しするアナス・ビン・マーリクの伝えるハディースにみられるように、これは教友たちの質問要求に答えてなされた預言者（彼の上に平安あれ）の通告です。

要約しますと、祝福された3ヶ月は一年中で宗教的義務が一番濃縮されて、今までも行われ、今も行われ、さらにこれから行われるであろう一時です。これらと共に、霊的能力を発見し、精神的成長をとげ、精神界まで高くのぼるためには切なる希求と準備と、強い意欲を必要とする幸福な一時でもあります「ラジャブ月はアッラーの、シャアバーン月は私の、ラマダーン月は共同体の月です。」という聖ハディースを解釈した上述の7点の基本、源、鍵となったのは、アナス・ビン・マーリクにより伝えられた別のハディースですが、それにより私たちのテーマを飾ることといたしましょう。

聖預言者（彼の上に平安あれ）は、ラジャブ月を「アッラーの月」として思い起こす理由を聞かれたとき、「なぜならそれは赦しの月です。この月に血を流すことは禁じられました。アッラーの友、しもべたちをこの

月に罰の苦痛から救いました。」と答えました。預言者（彼の上に平安あれ）はさらにこのように御言葉を続けられました。「ラジャブ月の初めの金曜日の前日には、うかつに過ごさぬように、その日は天使たちのラギーブと名づけられた夜です。このように呼ばれる理由は以下のとおりです。その夜の三分の一を過ぎたころ、地上で、天で、住む全ての天使たちがカーバ聖殿とその周辺に集まります。アッラーは彼らをご覧になり、こう仰せられます。『天使たちよ、あなたがたが望むもの私から望みなさい。』すると彼らはこう答えます。『私たちがあなたから望むことは、ラジャブ月に断食した者たちへの御赦しです。』そのときアッラーはこう仰せられます。『すでに今から彼らは赦されました。』と。」

慈悲あまねく慈悲深き真の主が、私たち罪深きしもべたちを、3ヶ月の間、罪から清め、罪を取り除き、光り輝かせ、落ちた場所から起き上がらせ、歩かせ、走らせ、飛ばせ給う月々として価値付け、意義を深め、徳を高め給いますように。聖ラマダーン月には恵みと慈悲そして救いに至る「みいつの夜」を、聖シャアバーン月にはスンナ完全に従うことにより、「赦し」を与えてくださいますように。ラジャブ月には、その月中アッラーに祈願しながら心のミィラージュを全うする天使のような人間となし給いますように。私たちを偉大な愛護者の友、謙虚なしもべであられる預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）に役立つ愛すべき共同体の一員となし給え。善き自我にふさわしい神のご満悦のみを求める愛らしきしもべとなし給え。天国の榮譽を与え給え。完璧な美で高め給え・・・





将来についての言及

6. バヌー・カントウラが出現することについて

イスラーム世界を悩ませることになるある民族について、預言者は次のように述べておられる。「後に、バヌー・カントウラが出現するだろう。彼らは幅広の顔で、目が小さく、低い鼻をしている」⁵

歴史書は、これをモンゴル民族のことでありと示している。そもそも預言者ムハンマドの言及されている、イスラーム世界の直面する二つの大きく悲惨な戦いがあり、一つはフェルディナンドとの戦いである。これはあらゆる意味で西欧の野蛮さにおいて発生したものである。二つめがモンゴル人の災いである。彼らはエジプト、シリア、そしてアナトリアと、文化の中心地を全て破壊し尽くし、全ての地を戦場とし、そして去って行った。

預言者ムハンマドのウンマ（共同体）の運命に大きく関わる者であるため、このような戦いは彼らの注意を引くこととなり、預言者ムハンマドのウンマに罰をくだされる時、アッラーは、彼らに対して、恥を知り礼儀正しくさせるための要素として残酷な者たちを用いられる。それはアッラーの剣である。それによって、まず罰が与えられ、その後その者たちも同じ目に遭う。つまり、残酷な者たちもその虐待も長くは続かない。アッラーはまずこの残酷な者たちによって信者たちを悩まされ、それから彼らをも捕らえ、地の底に沈められる。

そして、このようなことから逃れるために、預言者ムハンマドはウンマに警告されているのである。アッラーのお怒りをもたらすような行動はやめるように勧められ、彼らに訪れる災いについて、さらに、この件についても語られ、知らせをくださっているのである。もたらされたこの知らせは、6～7世紀後に実現し、預言者ムハンマドが真の預言者であることを明らかにしているのである。

7. イスタンプールの征服の吉報

イスタンプールは征服されるであろう。当時の名称でコンスタンティノープルは、必ずムスリムの手に入るであろう。ハディースで預言者はこの知らせを伝えられる時、このように説明された。「コンスタンティノープルは、必ず征服されるだろう。その地を征服する軍隊は何と素晴らしい軍隊であろうか。その地を征服する司令官は何と素晴らしい司令官であろうか」⁶

教友たちの時代をその始まりとして、ほとんど全ての時代の偉大な司令官たちはこの聖なる知らせに相応しい者となるために何度もイスタンプールにやって来ては戻っていったのであった。アブー・アイユーブ・

⁵ Bukhari, Jihad 95, 96; Abu Dawud, Malahim 10; Ibn Maja, Fitan 36; Ibn Hanbal, Musnad 5/40,45

⁶ Hakim Mustadrak 4/422; Ibn Hanbal, Musnad 4/335

アンサーは、その中で、やって来たまま引き返さず残った、イスタンブールの中心でイスタンブールの真に価値ある真珠のような存在である。ここで、皆が知っている幾つかの出来事を繰り返すことは時間の無駄遣いのようにも思えるが、それでも幾つかの出来事については触れずにはいられない。

イスタンブールが征服された日、城壁に上がって旗を揚げたウルバトゥル・ハサンは、並みの兵士ではなかった。彼は将校であり、またファーティフの学友であった。

ウルバトゥルは城壁を超えた時、体中に負傷していた。それでも城壁に上がり、旗をそこに掲げることができたのであった。しばらくの後、ファーティフも彼のそばに来た。ウルバトゥルは最期の時を迎えていたのであった。その口元の微笑が、ファーティフを驚かせた。彼はなぜ笑ったのか尋ねた。答えはこうであった。「少し前、預言者ムハンマドがこのあたりを見て回られていたのだ。だから嬉しかったのだ」

九世紀前に、このことが起こるであろうという知らせがもたらされていた。9世紀の後、その地を征服した軍の中に預言者は姿をお見せになったのである。私も、これによって、いつも次のように言ってきたし、これからも言い続けるだろう。「3～4人のみであったとしても、心から、イスラームへの奉仕のために集うなら、必ず預言者ムハンマドの精神的存在がそこにもたらされ、彼らもその地に名誉をもたらすだろう」

イスタンブールの征服も、他の証拠と同じように預言者の正当性を示す証拠の一つである。同様にアブー・アイユーブ・アンサーも信用できる証人の一人である。なぜならその地が征服されるであろうことを最初に聞いたのは彼であった。だからこそ、彼ははるばるマディーナからやって来て、その遺体はイスタンブールに埋葬されるようにと遺言を残したのである。⁷



⁷ Ibn Hajar, Isabah 1/405



ご病気の方々へのメッセージ

第7の治療薬：嗚呼、健康の楽しみを失った患い人よ。

あなたの病気は、健康時にアッラーが与えてくださった恵みの喜びを損ないません。逆に（喜びは）より味わい深く、より多くなります。なぜなら、絶え間なく続くとその効果は薄れてしまうからです。多くの真実を求める人々もこう語っています。「よろずのものは相対することによって、熟知される。」たとえば、暗闇が存在しなければ明るさを知ることはありませんし、喜びもなくなります。寒さが存在しなければ暑さを十分に理解することはできませんし、水を飲むことの喜びを感じることもないでしょう。空腹が存在しなければ食べ物はおいしくはなりませんし、胃の渴きがなければ、水を飲む楽しみはありません。もし病気が存在しなければ、健康であることの喜びはなくなります。不健康がなければ健康の喜びは感じられないものです。

比類なき御業で調和のとれた形を創造なさる御方（ファーティリ・ハキーム）は、さまざまな恵みを人間に気付かせ、味わせたいと望まれ、人間が自発的に絶え間なく感謝することを望んでいらっしゃいます。宇宙の限りないさまざまな恵みを味わい、人間が知ることのできるレベルで、実に無数の器官や機能で人間を装飾し、（御自身の恵みを）示されます。このため、人間の健康と幸せをお与えになると同様、病気、欠陥、苦難などもお与えになるのです。あなたにお尋ねしますが「この病気があなたの頭、手、胃を煩わさないとすれば、あなたはあなたの頭、手、胃が丈夫であった頃の楽しく喜び溢れる神からの恵みを感じながら、感謝なさったのでしょうか？ そうです、感謝の念もなく、考えることなどなさらなかったでしょう。意識せず、その健康をおそらく注意もせずに、無駄に使い果たしたことでしょう」

第8の治療薬：おお、来世を熟考する患い人よ。

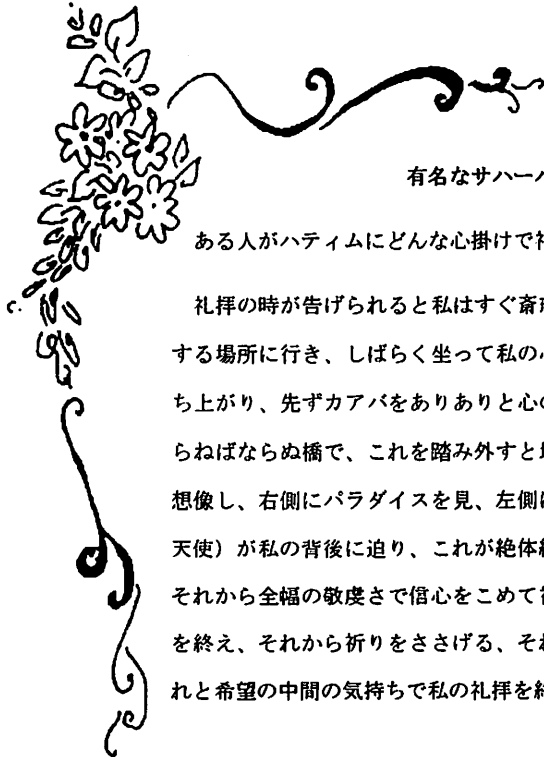
病気は石鹸のように罪のけがれを洗い落とし、清めます。病気が信仰者の犯した罪を赦すために、アッラーから与えられたものであることは、信頼しうるハディース（預言者ムハンマドの言行録、伝承のこと）でも確証されています。ハディースでもあるように「実のついた木が揺れるたび、熟した果実が落ちるように、信仰者の罪は病気のために彼が震えることにより消えさる」

罪は、永遠の生活では終わることのない病気です。この現世での生活においても、罪は心、意識、魂にとって精神の病気です。もしあなたが、辛抱し不平を述べなければ、この報奨高い病気によって、多くの病気からいつでも救われるのです。もし罪を考えないのでしたら、もしくは来世をご存じなく、アッラーを知ることもしないでいたら、それは大変ひどい病気を煩っていらっしゃるということです。それは本当に、あなたの小さなご病気の百万倍も重い病気です。その重い病気に悲鳴をあげてください。なぜなら、世界に存在する物全てはあなたの心、魂、自我と関連を持っているからです。絶え間なく続く用途別

れによってそれらの関係は切断されあなたの限りない傷は開かれることとなります。特に、もしあなたが来世についてご存じないために、死を永遠の無であるのご想像なさるなら、あなたはまるで傷つけられ、切り裂かれた感じ、世界ほど大きい病気にあなたの肉体は悩まされます。

まずあなたのなさるべきことは信仰心（イーマーン）を救う方法を探すことです。それから信仰心を正すことが必要となるでしょう。イーマーンは、たいへん傷つき、重い病気を煩うこの大きな精神（魂）の体には、確実にくすりとなり、治癒させることができます。そのくすりを見つける一番の近道は、あなたの肉体的病気が打ち破れる不注意の覆い（ヴェール）の背後に示されたあなたの無力さと弱さの窓を用いて、尊厳に満ちた全能なる御方のお力と慈悲深さを認めることなのです。

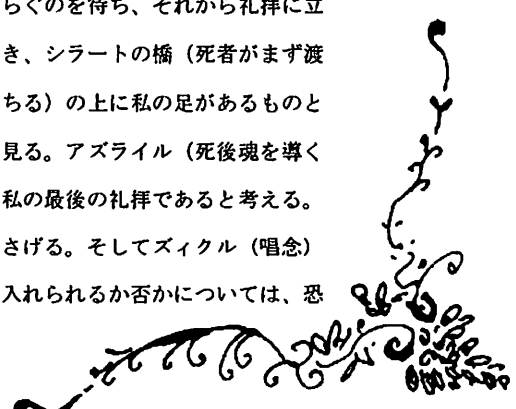
そうです。アッラーを知らない者の世界には災難が満ち溢れています。アッラーを知る者の世界は光り輝き精神的幸せに満ちています。その知る段階によって、イーマーンの強さによって、それらを感じることができます。このイーマーンから生まれる精神的幸せと癒しと喜びによって、些細な肉体的病気の苦しみは消え去ります。 ...つづく



有名なサハーバの折り

ある人がハティムにどんな心掛けで礼拝するかと聞いた時、彼は答えた。

礼拝の時が告げられると私はすぐ齋戒沐浴を行い、それから私が礼拝しようとする場所に行き、しばらく坐って私の心身が安らぐのを待ち、それから礼拝に立ち上がり、先ずカアバをありありと心の中に描き、シラートの橋（死者がまず渡らねばならぬ橋で、これを踏み外すと地獄に落ちる）の上に私の足があるものと想像し、右側にパラダイスを見、左側に地獄を見る。アズライル（死後魂を導く天使）が私の背後に迫り、これが絶体絶命の、私の最後の礼拝であると考え。それから全幅の敬虔さで信心をこめて礼拝をささげる。そしてズィクル（唱念）を終え、それから祈りをささげる、それが受け入れられるか否かについては、恐れと希望の中間の気持ちで私の礼拝を終わる。



人間とイスラームを分けて考える

私自身が証人となり、イスラームとはどんなものなのかを知ってもらうということは私の望むことです。しかし、そんな理想にまだまだ手が届いていないのが現実です。ムスリマとして生活していくうちに、次第に自分が証人にふさわしいように振舞うべきだという自覚を持ち始めました。証人にふさわしいとは、その人を見て、イスラームが見えるような人です。つまり、常に公正であったり、正直であったり、寛大であったり、することです。しかし人間は弱いもので、常にそのような状態に自分を置くことはとても難しいことです。時々私は、私を通してイスラームというものを理解して欲しくない。と消極的になることがあります。その時はたいてい私がムスリマとしてふさわしくない行動をしている時です。このような考え方は大げさに聞こえるかもしれませんが、実際に私がイスラームを知った時というのは、人の行動やしぐさを見た時や、話しをした時でした。一人のムスリマとしてそんな存在になれば、証人にふさわしい存在に近づくことができるでしょう。

自分と他者

このムスリム、ムスリマはこうである、でもこのムスリム、ムスリマはこうである。という質問を投げかけられたことが度々ありました。その内容は、服装に関することから、飲酒、食するもの、それから生活態度など様々なことについてでした。確かにある人とまたある人では先ほど上げた事柄について違った様子が見られます。そして、その質問には必ず、「イスラームではこうなのか？イスラームではこうではないのか？」と続きます。つまり、ムスリム、ムスリマを通してイスラームを見ているのです。思い返せば、入信する前には私も同じことを考えていました。さらに、入信した後も、「イスラームではこうあるのに、どうして彼らはそのようにしないのか？」という不快に似たような感情にまで至りました。しかし、イスラームには強制はないし、それはその人の問題としてその人自身が解決しなければならないものであることを学びました。どうして私はがんばっているのに、他のある人はがんばっていないのかと悲しくなる時もありましたが、そんな考え方は間違えていると今は考えています。何を尺度にがんばっていると決めるのか？それは神様だけがご存知で、私が測るものではないからです。そもそも私自身ががんばっていると自分で思うことにも問題があります。実際にもっとがんばれるのに、自分で限界を定めて、限界までがんばったとして自分を納得させているかもしれません。それから、他人を見る余裕があるなら、もっと自分を見る余裕があるはずということを自覚するべきです。最後の日には自分のことで精一杯になり、自分の親のことさえ考えられなくなるといわれます。他者に目をやるよりは、自分の善行をせっせと積んだほうが賢明のようです。



「未知との遭遇」 Close Encounter of the Third Kind

皆さんは、9月のいわゆる「中秋の名月」をご覧になったでしょうか。関東では今年は珍しく天気が良く、大変きれいな満月を見ることが出来ました。夜空に月を見たり星をみたりするとき、昼間の青空を見上げるのとはまた違った趣があります。私だけかもしれませんが、青空がなんとなく地球の事を考えるのに対し、夜空では宇宙のこと、他の星のことなどスケールの大きな事を考えてしまうように思います。「人間」が住んでいるのは地球だけなのかしら？とか、こんなにたくさん星があるのだから、どこかに何らかの生命体がないだろうか？とか、ついつい考えてしまいます。

人間以外の存在と人間との関わりをいつも映画の中で追っているのがスティーブン・スピルバーグではないでしょうか。もちろん、『シンドラーのリスト』『プライベート・ライアン』等の戦争ドラマ、人間ドラマもありますが、やはり監督作品のジャンルとしては『ジョーズ』『E.T』『ジュラシック・パーク』『A.I.』『宇宙戦争』など、人間と人間ではないものの関わりを描く作品が主なのではないでしょうか。

そんな彼の初期の作品がこの『未知との遭遇』です。

地上で多くの光や未確認飛行物体（UFO）が目撃され、第二次大戦中に消失した戦闘機が忽然と現れたり、数人の人々が強烈な光に導かれて姿を消す。そのような異常事態のなか、やはり強烈な光とUFOを目撃した主人公ロイ（リチャード・ドレイファス）は、光の虜となり、正体を知ろうとのめりこんでいく。その頃、これらの現象を調査していたラコーム博士（フランソワ・トリュフォー）らは、UFOとのコミュニケーションの可能性を探り出していた。

ロイは「険しい山」のイメージが頭を離れないため、その山の模型を作るようになる。また、妙な音階の、曲とも言えない曲も頭から離れない。失踪した子供を捜す母親ジリアン（メリンダ・ディロン）も思い浮かぶイメージは「山」。そして妙な音。それらを求めていくうち、二人はワイオミングにある山に行き当たった。そこは、ラコーム博士らが政府機関が秘密裏にUFOとの接触をはかろうとしている場所であった…。

攻撃もしてこず、目的がはっきりしない異星人たち。その異星人たちは「スピルバーグ型」と言ってもいいような、スピルバーグ作品の異星人はこれだ、というような容姿であらわれます。その映像以外にも、不思議な雰囲気の出し方、音楽をコミュニケーション手段として使う発想の面白さなど、この映画には革新的なところがたくさんあります。重要な鍵となる、奇妙な音楽も、一度聴くと忘れられない印象深さを持っています。

映画の中では実在する異星人ですが、実際にいるかどうか、それはわかりません。いるかもしれないし、いないかもしれない。たとえ異星人がいなかったとしても、自分たちとは全く違うところで生まれ

育ったモノと出合ったらどうしたらいいのか、というのはスピルバーグが形を様々に変えて私たちに提示してくる「人間が永遠に探求すべきテーマ」のひとつなのかもしれません。お互いにどうしたらいいのか。とりあえず全滅を目論むのか、それとも友好的な姿勢をとるのか。攻撃し排除するのか、それとも仲良くしようと試みるのか。これらのことは、人間と人間でないものの場合だけでなく、もちろん人間同士の場合にも言えることです。全く違う環境で生まれ育った者は、同じ人間という生き物であったとしてもわかりあいづらいものです。ささやかな事の衝突、小さな溝、ちょっとした行き違いが、取り返しのつかないほど大きなものになって行きます。それらをどう乗り越えていけばいいのか、どうしたら妥協点がみつかるのか、互いにどういう努力すればいいのか、それとも、働きかけを放棄し何もしないほうがいいのか…。考えるべきことは次から次へと、それこそ星の数ほど浮かんできます。

異星人がいるかないかは別として、ラマダン中は空気がきれいになると言われる一ヶ月ですから、この機会に是非、夜空を見上げて色々と想いをめぐらせてみるのはいかがでしょうか。

『未知との遭遇』 1977年 アメリカ 137分

監督：スティーブン・スピルバーグ

出演：リチャード・ドレイファス（ロイ）／メリンダ・ディロン（ジリアン）／フランソワ・トリュフォー（ラコーム博士） ほか





一本の指が動く時 「When a finger moves」

私が自分の指を動かそうとする時、脳にある多くの神経細胞がインパルス（電気刺激）を送り始める。これは脳から、延髄や脊髄を通し、体の他の部位に伝えられる。それは、末端神経の一つを形成する、腕へ達する。それからこの電氣的刺激は指に達する。それは筋細胞に働きかけ、収縮させ、指が動くのである。

これらのことが起こるとほぼ同時に、私の目と私の指からの情報が脳へと伝えられ、それにより、私の指は私の思うように動くのだ。例えば、指の動くところに何か障害物がれば、脳は指の動く方向を変えることができるのである。

ただし、ここで述べたことは、決してシンプルな出来事ではない。神経細胞から筋細胞に至るまで、一連のプロセスを通し、非常に複雑な変化が、細胞および分子のレベルで発生しているのだ。

筋細胞を取り上げてみよう。電気刺激は、軸索を伝わって終板に達し、筋肉は収縮する。収縮がおこるのは、電氣的变化によってカルシウムチャンネルが開き、カルシウムイオンが筋小胞体から放出されるためである。高校の生物の授業を思い出してみよう。筋細胞の変化は、二つのたんぱく質（ミオシンとアクチン）が互いに滑りあう結果起こるものである。普通、アクチンはトロポミオシンと呼ばれるたんぱく質に隠されている。だから、収縮をもたらすミオシンとアクチンの相互作用は発生しない。脳から筋肉が収縮するよう電氣的な刺激が送られると、カルシウムが筋肉細胞の中へと送り出されるのはこのためである。これによって、ミオシンとアクチンを引き離していたトロポミオシンの作用を抑えるのだ。

さらに、ATPと呼ばれるエネルギーを持つ何百万もの分子が、ミオシンと、筋肉の収縮に結びついている。収縮が終わると、放出されていたカルシウムは、特定の区画に再び収納される。カルシウムが存在しなくなると、トロポミオシンは再びアクチンを覆う。そして何百万の筋細胞は最初の位置に戻り、次の収縮に備えるのである。

一般の読者にとって、これらの内容が難解なものであることを私は理解している。しかし、実際ここで行なわれていることは、実はもっと複雑なものなのだ。

「ATPがミオシンに結びつく」や、「カルシウムが特定の区画に収納される」といった表現は、実のところ、非常に複雑な作用をシンプルに言い表しているに過ぎない。何においても一つの理由があるように、わたしたちの細胞にも、これらの機能を持ち、こういった作用を実行すべき何かを持っている。

この問題を最大限まで拡大していくならば、「各細胞は急速で規模の大きい化学反応を、常に、そしてお互いに妨げあうことなく起こしている」ということを理解する必要が出てくる。現在の科学の知識によるなら、酵素が、細胞におけるほとんど全ての反応を起こしていて、DNAは酵素を作り出すために必要な全ての情報を持っている、ということが出来る。酵素はたんぱく質の分子であり、細胞内で起こるあらゆる反応をすばやく起こさせる。もし酵素が存在しなければ、数秒で起こる反応に何千年もかかることになり、従って、私たちが知っている形での生命というものは存在しなかったであろう。生命の存在のためには、正しい酵素が正しい場所、そして正しい反応において存在することが必要なのだ。

話を続けよう。電気信号が筋細胞に到達し、カルシウムイオンが放出されると、それと共にあらゆる外的、内的信号がDNAに伝えられる。これは今から情報伝達システムによって、実現される。その後、RNA（リボ核酸）が、酵素を作るDNAの領域で作らされる。この酵素は、細胞が適切な答えを出すことを可能にする。（RNAは、DNAが酵素を作り出すのを助ける。）

ATPアーゼ（アデノシン三リン酸、ATPの末端高エネルギーリン酸結合を加水分解する酵素群の総称）は、他の酵素がATPアーゼ細胞の正しい位置にあるか確認する際、ATPを用いることを可能とする。一方、生命の維持のため、何千もの酵素が、正確な時、正確な場所において様々な反応を行なう。つまり、私が自分の指を動かす時には、動作している要素の数は膨大なものとなるのだ。

細胞の、より素晴らしい点を見てみよう。ここでは計算をシンプルにするために、実際よりも小さい数を使うが、脳における最初の衝動のレセプションからある種の動作を筋肉が行なうまでに関わっている細胞を100万個と仮定し、そして、1000回の反応がそれぞれのセルの中に起こるとするならば、これは、指を一本動かす際には、のべ10億もの反応が起こっている、ということの意味する。わずか一秒間で、10億の反応である。そして同時に、私の心臓は鼓動を続け、新しい血液細胞が作られており、私の目は映像情報を脳に送り、私の腎臓は私の血をろ過しており、私の肺は、古い空気を新鮮なものと交換し、私の消化器官は必要な栄養素を供給する。さらにさまざまなことが起きている。さらには、これらのことが全て、継続的に起こっているのである。これらの動作が全て起こっているという事実は、非常に大雑把でシンプル化した仮定であるが、1秒間で1兆もの反応が起こっている、ということの意味するのである。この完全なマシン＝人間の体が、どの瞬間でも、ばらばらに壊れてしまうのではないかと感じる人もいるのではないだろうか。

私にもし、それが作用している、という経験的知識がなければ、私はそのようなマシンの存在を絶対に信じなかっただろう。私が1秒に1兆の反応を起こしていること、常に起こしていること、取り違えたりはしないことをどうやって信じられたらだろうか。指を動かすのに10億の反応が起こっていること、1兆ものギアが、それ自体ひとりで、ミスなく動き続けているということ。

こういったことを考えていた折、私は次の文章に出会った。「あらゆる種類の芸術と富を持つ建物が、それを建てた誰かなしに存在することはありえない。同様に、この宇宙の存在は、その創造者と親密に結び付けられる。注意深く熟考すれば、一方だけを受け入れることは不可能となるだろう。」これを読んだから、私はこれらのギアが、ひとりで動いているのではないことを理解し始めた。あらゆる瞬間に、この1兆のギアは、ある存在に管理されているのだ、その存在にとっては、どんな事柄でも容易なのだ、ということに。もし、その存在の力が一瞬でも途切れたとしたら、1兆のギアは、不可逆的にぐちゃぐちゃに混じりあい、私たちの体はバラバラに壊れてしまうだろう。



レシコーナー

タンドリーチキン

鳥のもも肉（骨があってもなくても可）

塩、コショウ 少々

カレー粉 大匙 1/2

漬け汁

ヨーグルト 1カップ

サラダ油 大匙 1

レモン汁 小さじ 2

トマトケチャップ 大匙 4

塩 小匙 1

パプリカ 小匙 1/2

クミン 小匙 1/2

ターメリック 小匙 1/2

ガラムマサラ 小匙 1/2

にんにく（すりおろし） 1かけら

しょうが（すりおろし） 1かけら

作り方

1. 鶏肉に味がしみこみやすいように、フォークでさす。
2. 1に塩、こしょう、カレー粉をすり込む
3. 漬け汁の材料を合わせて鶏肉を漬ける。（長く漬けるほどおいしい）
4. オープンに並べ、250度で約30分焼く



その5 「眠らないでよ」

Kちゃんは、すごく重度の子どもです。

自分で呼吸することが、かなり困難なので、気管切開という手術を受け、そこから管を通して、肺の中に空気を入れる装置をつけています。

緊張が強く、仰向けに寝た状態で両肩をギュッと上に上げて、肘を一杯に伸ばしながら、両手を、手の甲が中にむくように回転させて、いつもガチガチの状態になっています。

体が小さく、胸から腹にかけての両側には、砂袋がおかれています。首から下が緊張のせいでピーンとなることが多いので、その時にからだがかゆがまないう配慮された結果です。

それから、吸引のカテーテル（管）を、いつも鼻の中に入れてあります。そして経鼻経管栄養の管が、反対側の鼻の穴に入れてあります。この管は、外れないよういつも絆創膏で鼻の頭にくっつけられています。

要するに、私がいつも接するKちゃんは、ベッドの上にピーンとなって仰向けに寝ていて、両方の鼻の穴にはカテーテル、のど元には呼吸器の管（カニューレ）をつけているということです。

さらに、足の指には血中酸素濃度と心拍数を図るセンサーがついていて、いつもモニター画面に数字で表されています。

時々、胸の、3カ所にべたっとした電極のようなものを貼られ、心電図もモニターされることがあります。

1学期後半の授業で、開始時の検温で33度台と言うときがありました。急いで担当の看護師に知らせましたが「いつものことですよ」と言われてしまいました。そんな時のKちゃんはすごく深い眠りについていて、心拍数もかなり低く、まさに冬眠状態です。

肩をトントンとたたいたり、首の下に手を入れて、頭を揺さぶったり、様々な試みをすべてむなしく跳ね返してしまうものすごい爆睡でした。

午後からの授業を、比較的起きていることが多い午前にチェンジしてからは、爆睡することが少なくなりました。それでも3回に1回ぐらいはすごく眠たいときがあります。体操の曲を流しながら体を動かしているときは目を開けているのに、少しでも動きが止まると、すーっと目をつぶって身体全体の力もすーっと抜けていきます。そんな時看護師さんに聞くとやはり夜起きていることが多いそうです。真夜中に大きな目を開けて、ベッドの真ん中で力を入れているKちゃんを懐中電灯の光で発見するそうです。

初めてこの病棟に配属されて、夜勤をして見回る看護師さんにとっては、ほかの子どもたちがみんな眠っている病棟の中で、かなりびっくりする光景なのだそうです。

「見えない」「聞こえない」「しゃべらない」「泣かない」「笑わない」「動かない」と思われているKちゃんが、夜中に目を覚まして、大きな目を開けて何かを考えているように見えるからだそうです。

一昨日の授業では、看護師さんに協力してもらって、彼を抱っこしやすいようにいつもの呼吸器を酸素吸入器に変え、私がベッド上にあぐらに座って、Kちゃんを横から抱きかかえました。体操の曲にあわせて、身体を揺すったり、皮膚マッサージをしたり。Kちゃんは仰向けに寝ているいつもの状態と違って、おなかのあたりに折れ目を入れたように、少し身体をくの字にしています。そうすると、Kちゃんの両肩の緊張がとれて、両肘にも少し余裕の屈曲が入り、身体全体が柔らかくなりました。あごの下に入っていた舌の緊張によるこりこりも少なくなりました。

今日の授業では、久しぶりに眠りについています。看護師さんの話では、午前2時頃から6時ぐらまで起きていたらしく、その後ウトウトと眠り始めたそうです。心拍数も下がり、体温も下がり、からだ全体の緊張もとれて、すごく気持ちよさそうなKちゃんです。

ちょっとやそつとでは起きてくれません。代わる代わる看護師さんがやってきては肩をトントンとたたいて、声をかけてくれます。心拍数低下の警報音は止まるのですが、目を覚ますところには行きません。湯たんぽをからだの両側において暖め始めました。

「おはよう」の歌を歌って、Kちゃんが名前を呼ばれます。

「Kちゃ～ん」耳元で大きな声で、呼びかけます。

「もうすぐ Kちゃんの誕生日ですよ。Kちゃんはいくつになるでしょうか？」

完全に熟睡しているKちゃんの耳元から、いつものように授業が始まりました。

「こぎつねこんこん、やまのなか やまのなか・・・」

「すずむしさんが リンリンリン でんわをかけても リンリンリン・・・」

鉄琴の音が聞こえても、鈴の音が聞こえてもKちゃんは起きません。

あきらめかけていたときに「ウーン」と伸びをするようにして、パッと目を開けました。

ちょうどKちゃんのお母さんがやってきました。お母さんはKちゃんの病院に毎日来てくれます。今日はお風呂の日です。

“窓の外のお山の景色に、秋を見る。

空の色、雲の形に秋を見る。”

秋の風も、においも、音も伝わってきません。

病院の6階のベッドからは、山と、空と、雲しか見えません



先日、出産のために10日間入院しました。帝王切開だったので手術の前日は緊張してあまり眠れなかったうえ、術後も傷は痛いし2、3日は歩けず寝たきりで、ああなんでこんな思いしなきやならないの？という思いしかありませんでした。アルハムドゥリッラー（アッラーに感謝します）、我が子が無事生まれたことが唯一の救いと思って何日か過ごしました。

入院3日目ぐらいの夜でしたか、隣の隣の部屋から夜中に「痛いー。うーー。」というものすごい叫び声が聞こえてきて、看護婦さんが総動員で「どうされましたー？」と駆けつけていました。あまりにその方がうなるので、周りの迷惑になると思ったのか、看護婦さんがその方のベットを運んでナースステーションの方まで持って行った様子でした。初めその方がうなり始めた時は、私の様に帝王切開でもして傷が痛いのかしら？とも思ったのですがその尋常でない声に、ああここは産婦人科病棟だけれど出産する人ばかりではないんだ、と思ってとても気の毒になりました。その次の日、廊下ですすり泣きがかかるので、もしや昨日の方が亡くなったのではとちょっと心配になりましたが、歩けるようになってその方の部屋の前を通ると何とか持ちこたえておられる様子でした。後から耳にした話ですが、その方はモルヒネをうって痛みを耐えているのだそうです。皮肉なもので、赤ちゃんを産んで明るく退院していく人々がいるなか、日々生死をさまよいながら痛みを耐えておられる方もいるんだなあと思うと、帝王切開ぐらい何でもない、自分は赤ちゃんまで授かってなんて幸せなんだろうとアッラーに感謝しました。

5日目ぐらいからは痛みも引き、授乳と食事以外は何もすることがなく、横になって、ぼーっと窓の外を眺めたりして過ごしました。こう暇だといろいろ考えてしまうものですが、あのうなり声の主を思っていました。あの方は今何を考えているのだろうか？退院の見込みの無い中でただ時間ばかりが過ぎていく。。。そんな虚しさの中で彼女は何を思い時を過ごしているのだろうか？あの方もアッラーの存在を知ればどんなに楽だろうに。

約1年前に、あるシスターのお母様が亡くなったのを思い出しました。アッラーに讃えあれ。亡くなる直前にその方はムスリマになられたのですが、それがどれ程心の支えになったのだろうと想像しました。本当に良かった！

最近、アッラーの存在そのものを知れたということがどれだけ素晴らしい恵みであるかということを考えます。あの病院の方は今どうなったでしょうか。アッラーのご慈悲がありますようお願い申し上げます。



イスタンブールにいた頃、私の住んでいたところでは、朝は太鼓の音で始まりました。ダブルジュといわれる人たちが、太鼓を打ちながら通りをねり歩いているのです。

トルコに行く前、オスマン時代はどこにでもたいていこういう人がいて、目覚まし時計の代わりになっていたという話を聞いたことがありました。でも最近では、どこの家庭でも目覚まし時計があり、うるさいとかいらぬとかいう声も多く、廃止されている地区もあるという話も聞いていました。

そういうわけで、始めてその音を聞いたときは大いに感動しました。脈々と受け継がれてきたものに触れる喜び、と表現できるかもしれません。何百年も前から、この街で、この時期になると人々が朝早く起きて断食前の食事をとっていた、ということが実感として感じられました。日本が太平洋戦争をしていた頃、大正ロマンが全盛だった頃、明治維新で人々の暮らしが激変しつつあった頃、日本に黒船が来て大騒ぎしていた頃、江戸文化が成熟し天下泰平だった頃…。やはり歴史に翻弄されながらも、この街に生きていたそれぞれの時代の人々が今の私と同じように夜明け前におきだして食事を作っていたのだなあ、という実感です。そこから少しでも視野を広くするなら、この街がまだラマダーンというものを知らない頃から、14世紀も前から、今の私と同じように、夜明け前に起き出していた人々が確かにいたのだ、ということの実感にもつながります。ムスリムになってこの年で3年目だったかと思いますが、こういったことをはっきりと実感できたのはそのときが初めてでした。

日中、断食を続けながらも、この気持ちを常に感じることができるようになったのもこの年からです。今、世界中のムスリムが断食をしている。100年前も、200年前も、1000年前でも、同じことをしていた人々がいた。視野を少し変えるなら、時差があるこの世界で、私が断食前の食事に起きたこの瞬間に、まだ断食をしている人々がいる。断食明けの食事を取っている人々がいる。タラーウィーの礼拝を捧げている人々がいる。時空を超えた一体感に圧倒されそうでした。

今、日本にいて、町全体を包むラマダーンの雰囲気、といったものを感じることはできません。でも、周りの人が断食していないから自分が断食するのは難しい、とは感じないのです。今この瞬間に、自分と同じように断食を行っている人々がいる、自分が寝ている時間でも、断食を続けている人々がいる。数百年前にも、同じように断食をしていた人々がいた。こういった事実思いをはせると、この上ないほどの連帯感を感じます。今日の前に同じように断食している人がいないことなど、この一体感に比べるとほんのささいなことのように思えてきます。こういった一体感は、本来常に感じているべきものだと思いますが、常に思いをはせている、ということは私には難しいのが事実です。私にとって、ラマダーンは、これを心から感じさせてくれる月でもあるのです。

樋口めぐみ

購読価格（郵送料込み）バックナンバーは、1部200円（日本以外は1部250円）

国内： 1ヶ月 250円、 6ヶ月 1300円、 1年 2500円

国外： 1ヶ月 300円、 6ヶ月 1600円、 1年 3000円

郵便振替口座番号： 00140-4-574489 口座名義： Yasuragi

三井住友銀行 店番号：005（春日部） 口座番号：7315959 口座名義： Yasuragi
皆様のご意見、ご感想、ご質問をこちらのコーナーまで心よりお待ちしております

<http://www.yasuragiweb.com> info@yasuragiweb.com yasuragi_nihon@hotmail.com

〒168-0074 東京都杉並区上高井戸3-10-6, 404

「やすらぎ」編集部